

くらし

あんしんシニア塾

第7部 民間の保険と年金

④

安心・安全

結びプロジェクト

老後の生活資金の中心は公的年金ですが、家計調査では平均的な生活費の8割程度で十分ではありません。それを補完するものの一つに民間の生命保険会社が扱う個人年

金があります。ただ、リスクの高い商品もありま

まず定額年金です。こ

まりますので、ある程度の安心感があります。これに対し、変額年金は運用がうまくいけば高収益が期待できますが、逆に失敗すれば払い込みが、運用期間は10年以上が、運用期間が長いのは変額年金だけではありません。定額年金であっても、例えば外貨建てで運用するものは円に換算する際の損益が発生するリスクもあります。

個人年金

リスク高い商品に注意

ので注意も必要です。

個人年金には▽契約時の予定利率などがもとになつて年金額が決まる定額年金▽株式や債券などの運用実績で年金額が決まる変額年金の2種類があります(図参照)。

これは大きく▽確定年金▽終身年金に分類されます。確定年金は10年とか15年など契約時に決められた期間で受け取ります。途中で死亡した場合は遺族に支払われます。終身年金は生存が条件ですが、受給開始後の一定期間は死亡しても遺族が受け取れるものが多いようです。いずれにしても、定額年金は将来受け取る年金額が契約時に決

ります(図参照)。現役世代の場合は毎月払い込んだ保険料が原資になります。シニアの場合は退職金などをもとに一括払いし、一定期間据え置く(運用する)の

個人年金の主な違い

	定額年金	変額年金
年金額	<ul style="list-style-type: none"> 契約時の予定利率などをもとにした年金額を受け取る (配当金による増額された年金額を受け取れることもある) 	<ul style="list-style-type: none"> 据え置き期間の運用実績で年金額が決まる (年金額に関して払込保険料などを保証するものもある)
運用方法	<ul style="list-style-type: none"> 生命保険会社が安全性を重視して運用する 変額は自己責任が強いね! 	<ul style="list-style-type: none"> 一般的にはあらかじめ用意されている国内外の株式や債券などから契約者が選択し、生命保険会社が運用する 運用リスクは契約者が負う

※生命保険文化センターの「ねんきんガイド」から作成
電話03(5220)8520

場合が多いので、高齢期のニーズにあっているのかよく確認を。投資性が強いのは変額年金だけではありません。定額年金であっても、例えば外貨建てで運用するものは円に換算する際の損益が発生するリスクもあります。こうした商品は銀行でも販売されているため、元本保証だと思いつつ高齢者が多いようです。「預金」と思って契約したなどというトラブルが、特に60〜70歳代の女性に目立っています。納得できるまで説明を受けることが大切です。(共同編集委員・高瀬高明) 次回からは第8部「税金」です。